

たたかう仏像

Battling Buddhist Images

2026年1月2日(金)～3月22日(日)

前期:1月2日(金)～2月8日(日)

後期:2月10日(火)～3月22日(日)

目をいからせ、武装する仏像は何とたたかい、何を護^{まも}っているのでしょうか。

私たちが「仏像」と聞いてまず思い浮かべるのは、柔和な表情をたたえた仏や菩薩の姿かもしれません。しかし、寺院のなかには甲冑を身にまとった四天王像や十二神将像あるいは、火炎を背負った不動明王像など、怒りの表情を見せる仏像も見られます。

本展では、重要文化財《十二神将立像》(浄瑠璃寺旧蔵)を中心に、彫刻や絵画に表された神将像・明王像など、「たたかう仏像」のさまざまな姿を紹介します。これらの像には、外敵や災厄から人々を守る守護的役割が期待されていただけでなく、衆生に最も近い場所で彼らを救済し、個人の内面において「煩惱」とたたかう存在としても信仰されていました。その姿が多様であるのは、まさに人々のさまざまな現世的な願い——すなわち「祈り」——に応えるためだったのです。

加えて本展では、中国・唐代の副葬品、神将俑を実に17年ぶりに展示します。墓室の入口に設置される神将俑を、その鎧の形状を継承する日本の神将像と共に展示することで、神将像の起源や役割を問いなおします。これまで彫刻史的枠組みでは取り上げられることの少なかった俑と仏像を同一空間に展示することで、新たな見方を提示します。



広報画像1
重要文化財 十二神将立像のうち寅神像
安貞2年(1228)頃 ※1/2～3/1展示



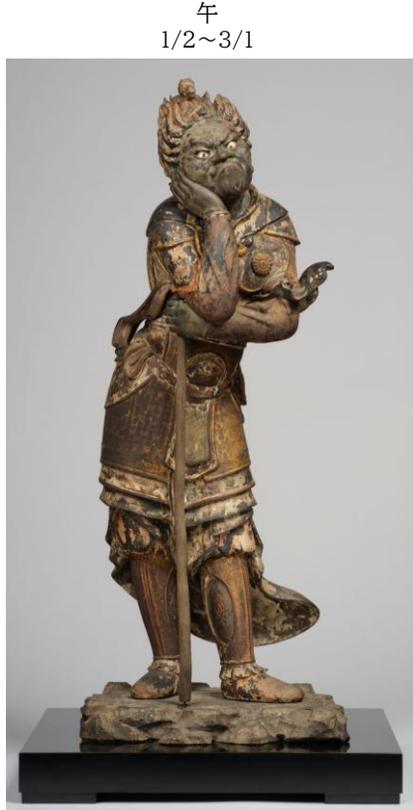
広報画像2-1
加彩神将俑 唐時代(7世紀)

【 本展覧会の3つのみどころ 】

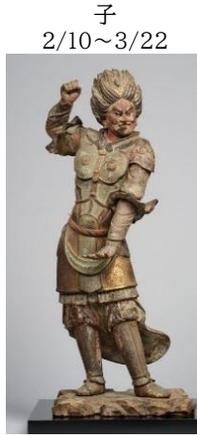
- ① 静嘉堂の十二神将像、勢揃い
- ② 神将像のルーツ？
貴重な神将俑を丸の内です初公開！
- ③ 救済の最前線:たたかう仏像の役割とは？

① 静嘉堂の十二神将像、勢揃い

十二神将と十二支は、東アジアでは強く結びついて信仰され、造形化されました。「何年の生まれか」を気にする人が今でも多いように、十二支はめぐる時間、めぐる方位を司る者として、生活に根付いた存在です。十二神将も同様に、我々に身近な仏像でした。



午
1/2~3/1



子
2/10~3/22



丑
2/10~3/22



寅
1/2~3/1



卯
1/2~3/1



酉
1/2~2/8、
3/3~3/22



亥
1/2~2/8、
3/3~3/22

広報画像3 重要文化財
十二神将立像のうち午神像
安貞2年(1228)頃 展示期間:1/2~3/1

(↑七軀)参考画像 重要文化財 十二神将立像
安貞2年(1228)頃
※前期から後期前半までは5軀を、後期後半からは4軀を展示いたします。

2026年は午年。重要文化財《十二神将立像》のうち、午神像だけが明確な図像的典拠が存在していない、いわば謎の存在。本展では、「杖をつく童子」の図像から、その秘密に迫ります。



熊野曼荼羅図(部分・切目王子)
南北朝時代(十四世紀)後期



重要文化財
不動明王二童子図(部分・制多迦童子)
詫磨栄賀筆 南北朝時代(十四世紀)後期

一木造りの
十二神将を
初公開!



広報画像4
十二神将立像
鎌倉時代(13世紀)通期

② 神将像のルーツ？ 貴重な神将俑を丸の内で初公開！



広報画像2-2
加彩神将俑
唐時代(7世紀)
通期展示



広報画像5
加彩神将俑
唐時代(7世紀)
通期展示



広報画像6
三彩神将俑
唐時代(8世紀)
通期展示



広報画像7
三彩神将俑
唐時代(8世紀)
通期展示

国内他館に類を見ない大型神将俑群、
17年ぶりに勢揃い！
中国の神将俑と日本の神将像を
比べて見る、新しい試み

神将俑は中国・唐時代の副葬品。その姿形は四天王や十二神将と共通し、ここで成立した「神将」のかたちは、その後の日本で長く受け継がれました。

鎮墓獣も登場！



(左) 広報画像9
加彩鎮墓獣(獅子面)
唐時代(7~8世紀)
通期展示



(右) 広報画像10
加彩鎮墓獣(人面)
唐時代(7~8世紀)
通期展示



広報画像8
三彩神将俑
唐時代(8世紀)
通期展示



参考画像
三彩神将俑
唐時代(8世紀)
通期展示

③ 救済の最前線: たたかう仏像の役割とは？



広報画像11
兜跋毘沙門天立像
平安時代(10~11世紀)
通期展示

毘沙門天は、四天王のリーダー、北方・鬼門の守護者ですが、彼には観音菩薩の化身としての顔もあります。南宋時代の《妙法蓮華経変相図》には、毘沙門天が衆生救済の実働部隊として、甲斐甲斐しく働く様子が描かれています。



説法する毘沙門天！

広報画像12
妙法蓮華経変相図(部分)
南宋時代(11~12世紀)
通期展示 ※場面替えあり



広報画像13
毘沙門天像
鎌倉時代(13世紀)
前期展示



化人は仏菩薩の化身。
普賢菩薩の「三化人」は、象の頭の上に、武器を持つ明王のような姿で描かれています。



広報画像14
重要文化財 普賢菩薩像
鎌倉時代(13世紀)
前期展示

明王は、教え諭すことの難しい対象を力づくでも導く存在。最も払い難い内なる敵・煩惱をも払います。



広報画像15
重要文化財 不動明王二童子像
陀磨栄賀筆 南北朝時代(14世紀)
後期展示

眷属は、中尊に祈る者を護る存在。千手観音を取り囲む二十八部衆は観音の信仰者を、釈迦を取り囲む十六禅神は『般若経』の信仰者を護ります。



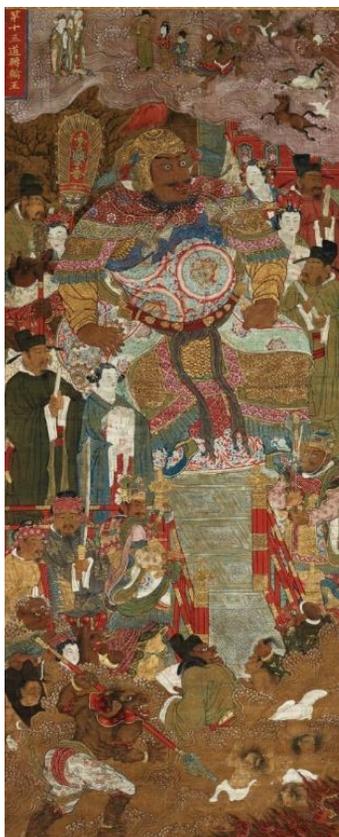
広報画像16
重要文化財 広目天眷属立像 康円作(部分)
文永4年(1267)
後期展示



広報画像17
千手観音二十八部衆像
南北朝時代(14世紀)
前期展示



広報画像18
重要美術品 釈迦十六善神像
久隅守景筆 江戸時代(17世紀後半)
後期展示



広報画像19
重要美術品 十王図二使者図のうち五道転輪王
元時代(14世紀)
後期展示

十王のうちの最後の王・五道転輪王が鎧を着ています。これは中国の民間において信仰されていた「五道神」の姿の影響と考えられます。



広報画像20
重要美術品 地藏菩薩十王図
高麗時代(14世紀)
前期展示

力士は神将と共に仏・菩薩の外側にあって中尊を護る存在。門中に立つ仁王もその一種です。



広報画像21
青銅如来・力士像 唐時代晩期～五代(10世紀)
通期展示

毘沙門天が刀身に彫られています。刀身彫刻は、刀の所持者への加護を期待して彫られました。



広報画像22
刀 銘 国路 桃山時代(16～17世紀)
通期展示

不動明王と愛染明王が、春日大社周辺の景色と共に描かれるこの厨子は、中世の奈良に隆盛した真言律宗における春日信仰を伝える貴重な遺品です。



広報画像23
十一面観音坐像・春日厨子のうち厨子
鎌倉時代(13世紀末～14世紀)
通期展示

【関連イベント】

1 講演「浄瑠璃寺旧蔵十二神将像は運慶作か」

講師：奥健夫氏(武蔵野美術大学教授)

日時：2026年2月14日(土)14:00～15:30

会場：明治安田ヴィレッジ「明治安田ホール」

(東京都千代田区丸の内2-1-1 4階)

申込方法：本展入館券込み参加券(1500円)要予約

協力：明治安田ヴィレッジ



2 担当学芸員のスライドトーク

日時：2026年1月11日(日)、1月25日(日)、2月22日(日)、3月8日(日)

いずれも11:00～、14:30～

会場：明治安田ヴィレッジ「明治安田ギャラリー」(東京都千代田区丸の内2-1-1 1階)

定員：各回40名 申込方法：当日整理券配布・当日入館券要(予約優先)

協力：明治安田ヴィレッジ

3 静嘉堂文庫(世田谷区岡本)探検！

非公開の静嘉堂文庫内部を学芸員が解説。庭園もご案内します。

日時：2026年2月24日(火)、2月27日(金) いずれも10:30～、14:30～

定員：各回20名 申込方法：本展入館料込み参加券(3000円)要予約

展覧会名 たたかう仏像

会 期 2026年1月2日(金)～3月22日(日)

前期：1月2日(金)～2月8日(日) 後期：2月10日(火)～3月22日(日)

※後期期間中に重文・十二神将像のみ一部展示替えがあります

会 場 静嘉堂文庫美術館(静嘉堂@丸の内)

住 所 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治生命館1階

主 催 静嘉堂文庫美術館(公益財団法人 静嘉堂)

休館日 月曜日(ただし1月12日(月・祝)、2月23日(月・祝)は開館)、1月13日(火)、

2月1日(日・全館停電)、2月24日(火)

開館時間 午前10時～午後5時 ※入館は閉館の30分前まで ※第4水曜日(1月28日、2月25日)は

午後8時まで、3月20日(金・祝)、3月21日(土)は午後7時まで開館

入館料 一般1,500円 大高生1,000円 中学生以下無料

問い合わせ TEL 050-5541-8600(ハローダイヤル)

ホームページ <https://www.seikado.or.jp>

X @seikadomuseum / Instagram @seikado_bunko_artmuseum

【報道に関するお問い合わせは】

◆静嘉堂文庫美術館 広報事務局(共同PR内 担当：三井)

※在宅勤務も増えているため、メールでいただくと助かります。

E-mail: seikado-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL. 03-6264-2382

〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア10F

◆静嘉堂文庫美術館 E-mail: press@seikado.or.jp(広報担当：大森/河本)

展覧会担当学芸員：大沼陽太郎

E-mail: seikado-pr@kyodo-pr.co.jp
 静嘉堂文庫美術館 広報事務局行(共同PR内 担当:三井)

特別展「たたかう仏像」 2026年1月2日(金)～3月22日(日)
 静嘉堂文庫美術館(静嘉堂@丸の内)
 【広報作品画像データ申請書】

展覧会の広報を目的として本申請書にてご申請いただいた記事・番組に限り、本展の広報用画像の使用が可能です。本展の会期中であっても別の記事・番組への転用はできませんので、その際には改めてご申請をお願いいたします。ご使用可能期間は本展会期終了までとなります。また、掲載に際しては、下記注意事項をご確認いただくとともに、本展終了後、データは速やかに破棄・削除してください。必要事項をご記入の上、E-mailでお申し込みください。E-mailでの送付が難しい場合、FAXでお申込みください(FAX:0120-653-545)

<画像使用全般に関する注意>

- 展覧会名、会期、会場名などの開催概要のほか、**指定表記、作家名、作品名、制作年**を必ず掲載してください。**所蔵元はまとめて1か所ご記載ください。**
- 作品画像は全図で使用してください。原則として文字を重ねる、トリミングなど画像の加工・改変・部分での使用はできません(画像背景を削除するなどは可能です)。雑誌の表紙などへの使用をご希望の場合は広報事務局までお問い合わせください。
- 概要など確認のため、グラブリ・原稿の段階で広報事務局までお送りいただきますようお願いいたします。
- 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録DVDを本展広報事務局へ1部ご送付願います。

希望	NO.	作者名・指定表記・作品名/画像資料名	制作年/制作年代	所蔵元/画像提供元
	1	重要文化財 十二神将立像のうち寅神像	安貞2年(1228)頃	静嘉堂蔵
	2-1.2-2	加彩神将俑	唐時代(7世紀)	静嘉堂蔵
	3	重要文化財 十二神将立像のうち午神像	安貞2年(1228)頃	静嘉堂蔵
	4	十二神将立像	鎌倉時代(13世紀)	静嘉堂蔵
	5	加彩神将俑	唐時代(7世紀)	静嘉堂蔵
	6	三彩神将俑	唐時代(8世紀)	静嘉堂蔵
	7	三彩神将俑	唐時代(8世紀)	静嘉堂蔵
	8	三彩神将俑	唐時代(8世紀)	静嘉堂蔵
	9	加彩鎮墓獸(獅子面)	唐時代(7～8世紀)	静嘉堂蔵
	10	加彩鎮墓獸(人面)	唐時代(7～8世紀)	静嘉堂蔵
	11	兜跋毘沙門天立像	平安時代(10～11世紀)	静嘉堂蔵
	12	妙法蓮華経変相図〔部分〕	南宋時代(11～12世紀)	静嘉堂蔵
	13	毘沙門天像	鎌倉時代(13世紀)	静嘉堂蔵
	14	重要文化財 普賢菩薩像	鎌倉時代(13世紀)	静嘉堂蔵
	15	重要文化財 不動明王二童子像 詫磨栄賀筆	南北朝時代(14世紀)	静嘉堂蔵
	16	重要文化財 広目天眷属立像 康円作〔部分〕	文永4年(1267)	静嘉堂蔵
	17	千手観音二十八部衆像	南北朝時代(14世紀)	静嘉堂蔵
	18	重要美術品 釈迦十六善神像 久隅守景筆	江戸時代(17世紀後半)	静嘉堂蔵
	19	重要美術品 十王図二使者図のうち五道転輪王	元時代(14世紀)	静嘉堂蔵
	20	重要美術品 地藏菩薩十王図	高麗時代(14世紀)	静嘉堂蔵
	21	青銅如来・力士像	唐時代晩期～五代(10世紀)	静嘉堂蔵
	22	刀 銘 国路	桃山時代(16～17世紀)	静嘉堂蔵
	23	十一面観音坐像・春日厨子のうち厨子	鎌倉時代(13世紀末～14世紀)	静嘉堂蔵
		ポスタービジュアル		

ご住所	〒		
社名/媒体名	社名	媒体名	
ご所属/ご担当者名	ご所属	ご担当者名	
TEL/FAX	TEL	FAX	
E-mail			
掲載号/発売予定日	月号(月 日号) / 月	日発売予定 (発行部数 部)	<input type="checkbox"/> WEBへの転載あり
チケットプレゼント	<input type="checkbox"/> 読者プレゼントを希望する ※プレゼント内容・数量に関しては別途ご相談となります。 応募、当選者選定、発送は貴社でお願いできればと思います。編集部で対応できない場合は広報事務局までお問い合わせください。		
チケット送付先	※上記ご住所と異なる場合は記載をお願いします。		